

□主な内容

【第 47 回 EST 創発セミナー in 姫島〔九州〕を開催します！】

12 月 11 日(月)に、大分県姫島村にて、「再エネで走る小型 EV で観光・生活交通の脱炭素化を進める」をテーマに EST 創発セミナーをハイブリッド開催します。セミナー前には電動モビリティ試乗等の現地見学会を、セミナー後にはネットワーキング交流会を行います。オンラインだけでなく現地でのご参加を心よりお待ちしております。

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu75.html>

【第 14 回 EST 交通環境大賞の募集を受付中！】

地域の交通環境対策に関する取組事例を発掘し、優れた取組の功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の募集を受付中です。〔応募締切:2024 年 1 月 11 日〕

<https://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2023.html>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 208 回)

●大学お膝元、滝沢市との公共交通での協働

【岩手県立大学 総合政策学部 准教授 宇佐美誠史】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 208 回)

●利用者が少ない公共交通を舞台にしたすごろくゲームの可能性 —山口県での 3 年間の取り組み—

【山口大学 創成科学研究科 辻辺 貴晃】

3. ニュース／トピックス

●第15回アジアEST地域フォーラムの結果について【環境省】

●第5回日ASEANスマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合の結果概要 ～我が国のスマートシティ海外展開に向けた国際会議を茨城県で開催～【国土交通省】

●デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)の進展状況について【環境省】

●脱炭素先行地域選定結果(第4回)について【環境省】

●地域公共交通の有する多面的な効果(クロスセクター効果) ～算出ガイドライン標準版の公表について～【国土交通省】

- 「エコレールマーク」の認定について【国土交通省】
- 11月はエコドライブ推進月間です！！～地球と財布にやさしいエコドライブを始めよう～
【国土交通省、警察庁、経済産業省】
- 道路法施行令及び建築基準法施行令の一部を改正する政令が閣議決定されました
【国土交通省】
- 省エネ内航船の船型開発及び建造・実証を支援します～公募結果のお知らせ～【国土交通省、経済産業省】
- アンモニア燃料船の社会実装に向けた追加研究開発の公募開始【国土交通省】
- 「2023年度エコドライブ活動コンクール」の結果発表【エコモ財団】
- 車道を同時走行する複数台の中速・中型自動配送ロボットを1人のオペレーターが遠隔監視・操作する実証実験を開始【NEDO、京セラコミュニケーションシステム】
- 「公共交通ってイネ！」中高生フォトコンテストの募集を開始します【中部運輸局】
- 会津バス奥会津ぶらり旅において、関係者によるサイクルバスの運用実験を実施します【東北運輸局、只見町、福島県只見線管理事務所、会津乗合自動車】
- 富山市スマートシティ推進プラットフォームが始動【富山市】
- IR いしかわ鉄道と金沢市公共シェアサイクル「まちなり」モビリティ連携社会実験の実施方法の変更について【石川県、金沢市】
- 自動運転・隊列走行 BRT 東広島市での実証実験開始と内容詳細について【東広島市、JR西日本】
- BRTひこぼしライン燃料電池バス(FCバス)実証運転を開始します！【福岡県、JR九州、CJPT】
- AIオンデマンドバス「のーと津幡」12月4日発車します！【津幡町】
- 加治川地域公共交通「かじかわ号」【新発田市】
- 北海道古宇郡泊村と「地域活性化包括連携協定」を締結【泊村、佐川急便】
- 秋田県大館市における自動運転実証実験にWILLERとティアフォーが参画～2025年の自動運転レベル4実装に向けたWILLERとティアフォーの自動運転事業連携第一弾～
【大館市、WILLER、ティアフォー】
- EVを活用した地域の強靱化に向け共創【宮古市、日産自動車、岩手日産自動車、盛岡日産モーター、日産プリンス岩手販売、日産チェリー岩手販売】
- 環境にやさしい鉄道の利用を通じてWESTERポイントが付与される『おおさかCO₂CO₂(コツコツ)ポイント+電車de脱炭素スタンプラリー』を開催します【JR西日本、ギックス】
- 郊外電車に新型鉄道車両7000系を導入！～バリアフリーに対応、環境性能を向上～
【伊予鉄道】
- 新たな乗車券サービスの名称と主なサービス内容が決定しました【広島電鉄、NEC、レシップ】
- 「鉄道&カーシェア」本格スタート！～伊豆東海岸地域の移動を便利にしていきます～
【伊豆急行、ダイハツ沼津販売】

- 「2023 年とっとり大山町フォトジェニックな田舎かふえ巡り×サイクルトレイン」の発売について【日本旅行、JR 西日本】
- 西武鉄道全線にて 100%再生可能エネルギー由来の電力を使用し、実質 CO₂ 排出量ゼロで運行します【西武鉄道】
- カーボンニュートラル実現に向けた「水素動力車両」の開発について【JR 東海】
- 藤枝市で AI オンデマンド交通「ふじえだ mobi」を運行開始 ～「交通×まちづくり共創プラットフォーム」が地域一体となって、誰もが快適に移動できる地域交通をつくれます～【静鉄タクシー、Community Mobility】
- 「乗合タクシー運行実証実験」スタート式を行いました【京都府タクシー協会】
- エリア定額乗り放題“mobi”が新サービス“Community Channel”で地域企業と住民をつなぐ ～地域に寄り添った、地域に有益な情報提供により、行動変容を促し移動を活性化～【Community Mobility】
- 軽自動車 EV タクシーの運行を開始 ～車両特性を活かし女性乗務員の獲得強化も狙う～【甲州タクシー】
- 人流をリアルタイムで計測し、都市や建築の空間評価に活かす 3D-LiDAR システムを開発【日建設計】
- 出光興産と FOMM がバッテリー交換式 EV 事業の協業検討を開始 ～国内の EV メンテナンスネットワークの構築により EV のカーケアニーズに対応～【日建設計】
- ラストワンマイル配送に燃料電池小型トラック・電気小型トラックを導入【佐川急便】
- 自動搬送ロボット「ハコボ」を用いて公園内での情報発信と巡回パトロールをサポート ～新たなロボットサービスの展開に向けて広島市内の公園で実施～【パナソニック HD】
- 自動運転事業において連携を開始 ～2023 年度に国内 3 エリアで実証実験を行い、2025 年度には 10 エリア程度での実用化を目指す～【WILLER、ティアフォー】
- フォロフライ F1 TRUCK をセブン-イレブンが移動販売車として初導入【フォロフライ、セブンイレブン・ジャパン】
- フォロフライ F1 VAN をアスクルが 2030 年「CO₂ゼロチャレンジ」検討車両として初起用【フォロフライ、アスクル】
- 配送計画を効率化するエンタープライズ向けクラウドサービスを提供開始 経路距離計算業務を最大 96%短縮し、物流DXを推進【ジオテクノロジーズ】
- 大分空港初、空港内作業車両で高純度バイオディーゼル燃料「B100 燃料」の実証実験を開始【JAL、くにさきエコシステム、国東重販】
- 1 台をさまざまな用途で活用できる「マルチタスク車両」のラインアップに EV を追加 ～2023 年 10 月から三重県で行われる医療 MaaS の実証実験で使用～【MONET】
- 内航船で廃食油を直接混合したバイオ燃料を用いた運航に成功【商船三井、商船三井内航】
- LNG 燃料パナマックス型石炭専用船「苓明」の運航を開始しました【商船三井、九州電力】

- 商船三井とコスモ石油が CCS バリューチェーン構築に向けた海上輸送等の調査・検討に関する覚書を締結【商船三井、コスモ石油、コスモエネルギーHD】
- 本邦航空会社初、水素航空機スタートアップ企業 3 社と協業を開始 ～安全・安心でサステナブルな未来の空を創るために～【JAL、JAL エンジニアリング、H2FLY GmbH、Universal Hydrogen Co.、Zero Avia Inc.】
- 「東京ベイ eSG プロジェクト令和 5 年度先行プロジェクト」において、次世代モビリティ(空飛ぶクルマ用浮体式ポート・陸海空のマルチモーダル MaaS)の提案が採択【野村不動産、清水建設、ANAHD、朝日航洋、Kidou Systems、イトノット、東京ウォータータクシー】
- 空中配送ロボットの実証実験に関する連携協定締結 世界初、郊外住宅地における空中配送ロボット実証実験 ～持続可能なまちづくりの実現へ～【パナソニック HD、東急、UR 都市機構】
- ドローンによる医療コンテナへの医療物資輸送の実証実験を実施します【名鉄】
- インドネシア・ジャカルタ郊外 BSD City における EV を活用した同国初の移動式コンビニ「Mobile Lawson」実証実験開始について 経済発展と都市化が進むインドネシアにて、住民のニーズに応える都市サービスの実装を目指す【三菱商事、Lawson Indonesia】
- 電気推進船の研究・開発・建造・日本でのマーケティング販路拡大に向けた覚書を締結【商船三井、Pyxis】
- 持続可能な都市モビリティ計画の策定支援する新たな自治体向け資金プログラムを開始【ドイツ】
- ドイツ・Hy2gen Deutschland と e-メタノール利用の共同検討に関する MOU を締結【商船三井、Hy2gen Deutschland】
- 重要鉱物の持続可能な開発に必要なインフラ整備に 15 億ドルを拠出【カナダ天然資源省】

4. イベント情報

- 第 47 回 EST 創発セミナー in 姫島〔九州〕【2023/12/11】
- 山陽電車なぞときさんぽ旅 第2弾【2023/9/15-2024/5/26】
- 鉄道の日 デジタルスタンプラリー(中国地区)【2023/10/1-2024/1/31】
- 第 35 回技術研究発表会「スマート技術を活用したウェルビーイングなまちづくり」【2023/12/1】
- おだきゅう Family Fun フェスタ 2023【2023/12/2,3】
- 鉄道イベント「高崎ぼっぼ祭り」【2023/12/9,10】
- 公共交通シンポジウム 2023「あなたのまちをデータで見ると何が分かる? ～都市データの交通分野への活用法～」【2023/12/11】
- 地域公共交通活性化シンポジウム in 関西 地域公共交通「リ・デザイン」に向けて ― 2024 年人流クライシスをどのように乗り越えるのか? ―【2023/12/15】
- グリーン経営認証取得講習会【2023/12/21,22】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 208 回)

●大学お膝元、滝沢市との公共交通での協働

【岩手県立大学 総合政策学部 准教授 宇佐美誠史】

今回は、地方のより望ましい地域公共交通をどのように実現していくとよいかということに関連して、所属する岩手県立大学が立地し、当然、付き合いも深い滝沢市と一緒に楽しんでいる取り組みを紹介したいと思います。

私は現在の所属になってから来年度で 20 年となります。岩手県内には自治体の都市・交通政策の対応できる大学教員が 2 人しかいないため、自然と多くの自治体と繋がるようになりました。

早速、余談ですが、自治体の道路建設や都市計画業務は土木技師さんが担当することが多く、これらと関連する公共交通の業務は土木技師が担当することはほとんどありません。某市の土木技師が公共交通担当になった時に、「交通と名がつく学科で大学を卒業したのに、20 年経ってやっと公共交通を担当することになりました」と伺ったことがあります。

もちろん、土木技師がやらなければならないということはありませんが、全く交通のことを勉強したことがない人が担当することが多いので、担当者の意欲によって公共交通政策の質が上がり下がりすることがあったり、0 から教えないといけなかったりと面倒なことが多々あります。そうならないために、公共交通計画には前の担当者からの引き継ぎ事項(遺言という言い方も)がしっかり書かれていることが重要です。ちなみに、私は土木系学科の出身です。

公共交通に意欲ある人が担当になった場合は、初めからそれを感じる人が多いです。大学のお膝元である滝沢市の S さんは、記憶違いでなければ交通政策課(今は都市政策課)の時に知り合いました。私と同年の土木技師で、人柄も良く意欲の塊です。当方の授業ともたくさんコラボしていただいて、学生が自治体のまちづくりや公共交通政策に興味を持ってくれるきっかけになったと思います。また、滝沢市で半年以上のアルバイトをし、スタッフとして公共交通会議などに関わったゼミ生も複数名います。

以来、いろいろあり彼は公共交通や都市計画から離れることがないという珍しい人事が続きます(専門性ある部署なので、一部にはこういう人事があっても良いと思います)、とうとう他部署へ行かないままに今年度には課長になりました。その間、彼の元には、元気な後輩(中には私が所属する学部の卒業生も)が異動でやってくることも結構ありました。

結果として、地域公共交通計画前身の地域公共交通網形成計画策定時には、学生との協働が事業として入ったり、市民が公共交通のことを楽しみつつ知ってもらえるような企画を入れたり、職員が公用車で移動することが多いところにバスカードでの移動を促す事業を入れたりなど、前向きな取り組みをたくさん計画し、しっかり実行してきました。

中でも、公共交通を楽しみながら学べる「たきざわ乗り物フェスタ」は、当方の学部1年生が少人数のクラスに分かれての演習での検討結果を地域公共交通会議で発表し、賛同いただいたものです。複数年にわたり実施し、学生もスタッフとして参加して実施してきました。1回だけですが、息子が参加したこともあります。

親子で実際の路線バスに乗り込んで利用方法を楽しく学ぶ「バス乗り方教室」では、イベント用に設定された公道を走りつつ、車内でクイズをしたり、途中のバス停で降車しスロープの出し入れやベビーカーの利用方法を学んだりします。学生たちが企画実施するコーナーや公共交通事業者の物販や車両展示などもあります。6時間くらいに2千人以上の参加者がある人気あるイベントに成長しましたが、訳あって今は休止しています。

話は変わり、滝沢市のバス路線は、ほとんどが隣接する盛岡市中心部につながり、県内でも2番目に本数が多いです。そのため、公共交通計画を考える時には盛岡市とのつながりを考慮することが重要です。しかしながら、盛岡市内のことを滝沢市が進めていくのは難しく、都市計画のように広域での計画を作らないとより良いネットワークの実現につながらないことを大きな課題として認識するようになりました。

同じように、盛岡市との繋がりが大きい矢巾町ともお話をしていると、同様の課題認識があり、盛岡市とお話をしても市内で完結できない課題認識があることがわかりました。そこで、東北運輸局や県などにも協力いただいて、広域での計画策定に向けた勉強会を重ね、今年4月から盛岡都市圏の公共交通会議を設立し、来年度までかけて計画を作ることになりました。思うようにいかないこともありますが、3市町や受注したコンサルタントの皆さんはしっかり頑張っていると思います。私も微力ながら応援しています。

今回、お伝えしてきたことのように、意欲ある方が多く関わっているとぶつかることはあっても前向きに進んでいきます。そこに、意欲ある学生や市民も一緒になって取り組めると最高です。ちなみに、滝沢市では「夜の公共交通会議」という楽しい会があり、現在の担当者だけではなくかつての担当者やその時々ゲストなどで盛り上がっています。

最後に、私が関係する公共交通の取り組みから思っても見なかった展開になっていることを書きます。いくつかの企業の協力を得て、位置情報を手軽に利用し、乗降データを取得・活用するシステム「RabiPeoCa」を開発・展開しており、滝沢市でも使ってもらっています。昨年度からスタートした東京大学未来ビジョン研究センター「ビヨンド・“ゼロカーボン”を目指す“Co-JUNKAN”プラットフォーム研究拠点」に参画し、ここでの予算も使わせていただきながら開発を続けていますが、そこで、交通分野でない多くの方々出会い、日々、議論しています。

そんな中、交通と全く関係のない農林業での資源マネージメントで RabiPeoCa を応用できないかという話があり、これはいけそうと思い具体的な取り組みを始めたところです。簡単に言うと、伐採する木の管理や農作物の効率的な収穫などへの応用です。分野は違えど意欲ある方々とお話ししていると、面白い気づきがあり、そういうことが持続的な社会をつくっていくように感じています。

RabiPeoCa の内容については、下記の「北いわて産業・社会革新推進コンソーシアムシンポジウム」の私の報告スライドを参照してください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/chiiki/1030499/1031076/1062742.html>

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 208 回)

- 利用者が少ない公共交通を舞台にしたすごろくゲームの可能性 —山口県での 3 年間の取り組み—

【山口大学 創成科学研究科 辻辺 貴晃】

1. はじめに

山口県は自家用車の利用率が高く、県内の観光地への移動手段は大半が自家用車です。そのため、お出かけ情報も自家用車の利用を前提としたものが多く、自家用車の保有率が低い学生も、日常的に鉄道やバスなど公共交通を利用する頻度が少ない傾向にあります。私たちは、鉄道を利用して外出し、魅力を感じるきっかけ・鉄道を利用した外出の魅力を発信することが必要だと考えました。しかし、地方の鉄道は、【待ち時間が長い・電車の本数が少ない・駅周辺に何も無い】と言ったマイナスの要因が多くあります。そこで、地方ならではの課題をゲーム性の高める要因として考えて、大学生が中心となり、公共交通すごろくを企画・実施しました。

2. 鉄道すごろく YAMAGUCHI について

公共交通すごろくは、テレビゲーム「桃太郎電鉄¹⁾」を実際の公共交通ネットワークを用いて行うもので、サイコロを振り、出た目の分移動することを繰り返し、ゴールとなる駅を目指すものです。

長い待ち時間を活用する方策として、下車した駅周辺を散策して撮影した写真にもポイントを付与し「山口県の魅力ある風景」を発見する仕掛けを設けることで、普段公共交通利用の少ない方が、「公共交通に乗って楽しみながら山口県の観光地や新しい魅力を発見する」ことも目指しました。2021 年から 3 年間、山口県を舞台にして鉄道・バスを活用した企画を実施してきました。

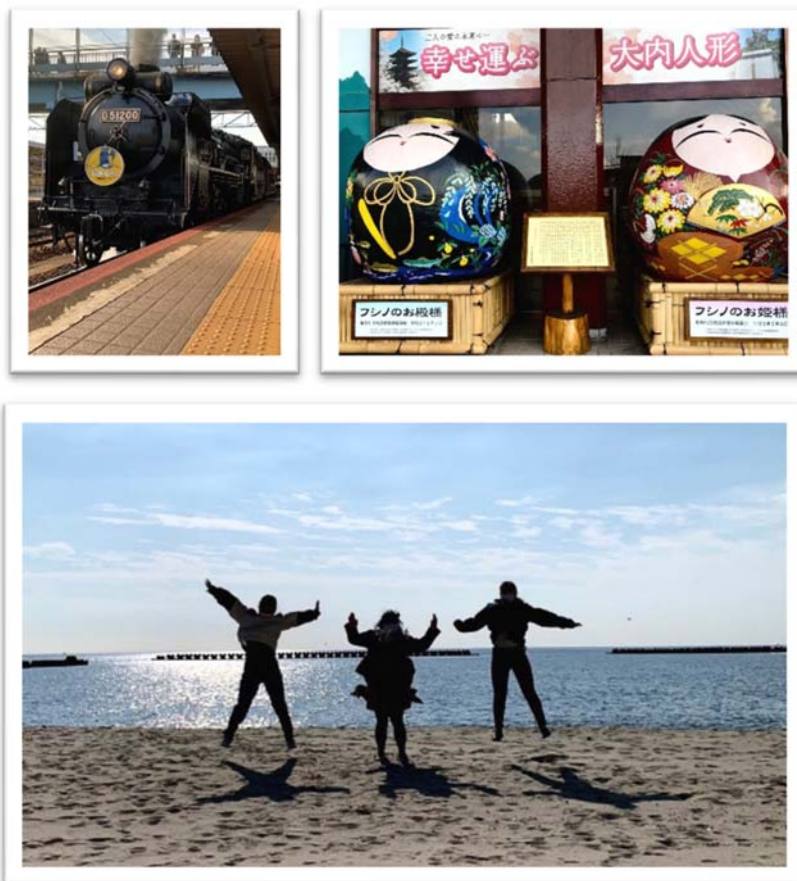
2023 年度は、11 月 3 日～4 日の 2 日間で鉄道すごろくを実施し、参加者 15 名(未就学児～50 代まで幅広い年代)の方に参加していただきました。

鉄道すごろくでは、3 年間で 36 名に参加いただき、51 個の山口県の駅を下車し散策していただきました。また、ローカル線にも数多く乗車していただきました。また、「鉄道旅行で見つけた山口県の魅力ある風景」の写真は計 3 回の実施で約 1000 枚を超えました。



3. 最後に

公共交通の利用が減少している地域では、公共交通を利用した外出やその際に感じる地域の魅力を知ることが必要で、公共交通を利用した外出の魅力を発信していくことがそのきっかけとなると考えています。地方特有の長い待ち時間や本数の少なさをゲーム性の向上につなげる企画とすることで、地方の公共交通独自の面白さに変化させることが可能であるとであるとと考えています。



- 1) 桃太郎電鉄は株式会社コナミデジタルエンタテインメントの登録商標です

3. ニュース／トピックス

●第15回アジアEST地域フォーラムの結果について【環境省】

環境省は、アジア地域における環境的に持続可能な交通の実現に向けて、2023年10月24日～26日に、マレーシア・クアラルンプールにおいて、国際連合地域開発センター（UNCRD）等との共催で「第15回アジアEST地域フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、「持続可能な交通への投資、SDGs時代における経済および社会的発展の促進」をテーマに、各国のESTに関する政策の共有や幅広い意見交換とともに、第14回フォーラムで採択された愛知宣言2030の目標に対する各国の取組状況についてフォローアップが実施されました。

https://www.env.go.jp/press/press_02362.html

●第5回日ASEANスマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合の結果概要 ～我が国のスマートシティ海外展開に向けた国際会議を茨城県で開催～【国土交通省】

国土交通省は、ASEANスマートシティ・ネットワークとの協力を推進するため、2023年10月26～27日に「第5回日ASEANスマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合」をASEAN各国、国内関係省庁、関係自治体と連携して、つくば市にて開催しました。

2023年の会合では、「防災-レジリエンス」をテーマに、スマートシティの成功事例を共有し、その成功要因について議論し、防災分野での一層デジタル化、本会合で共有された事例を含む優良事例集の作成及び共有の必要性を確認し、本会合の継続的な開催と、ASEANでのスマートシティ実現に向けて引き続き協力していくことを確認しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo05_hh_000326.html

●デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）の進展状況について【環境省】

デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）について、第9回デコ活応援団（新国民運動・官民連携協議会）会合が2023年10月20日に開催されました。また、2023年9月19日以降、新しい豊かな暮らしを創る各主体の取組や製品・サービス等が18件、追加で登録されました。

https://www.env.go.jp/press/press_02342.html

●脱炭素先行地域選定結果（第4回）について【環境省】

環境省は、2030年度までにカーボンニュートラルの実現を目指すと同時に地域の魅力と暮らしの質を向上させ、全国のモデルとなる脱炭素先行地域について、2023年8月18日から28日までの期間で第4回の募集を行い、共同提案を含め日本全国の62の地方公共団体から54件の計画提案を受領しました。

受領した計画提案について、2023年9月29日から6回にわたり開催した脱炭素先行地域評価委員会の評価を踏まえ、環境省において、12件の計画提案を脱炭素先行地域(第4回)として選定しました。

第1回から第4回までに選定された計画提案は74件となり、選定された市町村を有する都道府県は、32道府県から36道府県となりました。

https://www.env.go.jp/press/press_02388.html

●地域公共交通の有する多面的な効果(クロスセクター効果)～算出ガイドライン標準版の公表について～【国土交通省】

クロスセクター効果研究会は、10月31日、「地域公共交通の有する多面的な効果(クロスセクター効果)に係る算出ガイドライン標準版」を公表しました。国土交通省も、地域公共交通の多面的な外部効果を可視化するツールの一つとして、その活用推進に協力します。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000338.html

●「エコレールマーク」の認定について【国土交通省】

国土交通省は、2023年11月10日、第45回「エコレールマーク運営・審査委員会」(委員長苦瀬博仁東京海洋大学名誉教授)において、エコレールマークの取組企業として3社、認定商品として8件を新たに認定することを決定しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo05_hh_000134.html

●11月はエコドライブ推進月間です!!～地球と財布にやさしいエコドライブを始めよう～【国土交通省、警察庁、経済産業省】

警察庁、経済産業省、国土交通省及び環境省で構成するエコドライブ普及連絡会は、11月を「エコドライブ推進月間」として、エコドライブの普及・推進を図っています。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000303.html

●道路法施行令及び建築基準法施行令の一部を改正する政令が閣議決定されました【国土交通省】

国土交通省は、高速道路において水素等のガソリン以外の動力源を自動車に供給するための施設の整備を行いやすい環境を整えるため、「道路法施行令及び建築基準法施行令の一部を改正する政令」を、11月7日、閣議決定しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001720.html

●省エネ内航船の船型開発及び建造・実証を支援します～公募結果のお知らせ～【国土交通省、経済産業省】

国土交通省及び経済産業省は、内航海運の省エネルギー化を推進するための船型開発支援の1次公募及び革新的なハード技術及びソフト技術を組み合わせた船舶の建造・実証支援の3次公募を実施し、計4件の事業を採択しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kajji07_hh_000295.html

●アンモニア燃料船の社会実装に向けた追加研究開発の公募開始【国土交通省】

国土交通省は、グリーンイノベーション基金(GI基金)による「次世代船舶の開発」プロジェクトの「アンモニア燃料船の開発」に関して、社会実装に向けてより高い目標を達成するために必要な追加の研究開発2件の公募を開始しました。公募期間は、2023年11月13日から2024年1月9日までです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kajji07_hh_000297.html

●「2023年度エコドライブ活動コンクール」の結果発表【エコモ財団】

エコモ財団は、「2023年度エコドライブ活動コンクール」の審査結果を発表します。国土交通大臣賞1件、環境大臣賞1件、審査委員長特別賞2件、優秀賞6件、優良賞48件に決定しました。上位入賞者(大臣賞、審査委員長特別賞、優秀賞)の表彰と、大臣賞受賞事業者等の取組紹介を、11月28日開催の「エコドライブシンポジウム」の中で実施します。

<https://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive-activity-concours2023.pdf>

●車道を同時走行する複数台の中速・中型自動配送ロボットを1人のオペレーターが遠隔監視・操作する実証実験を開始【NEDO、京セラコミュニケーションシステム】

(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構の「革新的ロボット研究開発基盤構築事業／自動配送ロボットによる配送サービスの実現」で、京セラコミュニケーションシステム株式会社は、石狩市緑苑台東地区の一部エリアの車道で、1人のオペレーターが複数台の自動配送ロボットを遠隔監視・操作しながら配送サービスを行う実証実験を開始しました。車道を同時走行する複数台の中速・中型自動配送ロボットを、1人のオペレーターが遠隔監視・操作するのは国内初の事例で、1人が複数台の自動配送ロボットを運用することで、コスト低減や運用効率の改善が期待できます。

今後、NEDOと京セラコミュニケーションシステム(株)は本事業で、同時に複数台の自動配送ロボットを監視できるシステムの機能拡張や、自律走行比率の向上、安心・安全を示すエビデンスの収集を行い、自動配送ロボットの社会実装を目指します。

<https://www.kccs.co.jp/news/release/2023/1025/>

●「公共交通ってイネ！」中高生フォトコンテストの募集を開始します【中部運輸局】

中部運輸局は、愛知県・静岡県・岐阜県・三重県・福井県在住の中学生・高校生を対象としたフォトコンテスト「公共交通ってイネ！」を開催しています。応募期間は、2023年11月15日から2024年1月29日までです。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/kousei2023111501.pdf>

●会津バス奥会津ぶらり旅において、関係者によるサイクルバスの運用実験を実施します【東北運輸局、只見町、福島県只見線管理事務所、会津乗合自動車】

11月19日、会津バスにて期間限定運行中の路線バス「奥会津ぶらり旅」において、自転車を解体等することなく、バス車内にそのまま持ち込む「サイクルバス」の運用実験が行われました。

奥会津の只見川沿い地域は、雄大な自然と地域のおもてなしがサイクリストに好評です。道の駅などの休憩拠点が10kmから20kmごとに立地し、受け入れ環境が整っていることに加え、2023年9月、10月にJR只見線においてサイクルトレインの実験を実施した際にサイクリストからサイクリングの適地であるとの声が寄せられました。

<https://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/content/000306273.pdf>

●富山市スマートシティ推進プラットフォームが始動【富山市】

富山市は、人口減少社会における持続可能な都市モデルとして「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に先駆的に取り組み、世界的な評価を頂きました。

そして今、デジタル技術やデータの利活用によりコンパクトシティ政策を“深化”させる「スマートシティ政策」に取り組んでおり、「富山市スマートシティ推進プラットフォーム」を設立しました。

新たなマッチングを促進する定期的な交流会の開催はもちろん、市が伴走支援し、市民や行政のニーズをダイレクトに把握できるリビングラボの機能も提供します。

https://cdn.kyodonewsprwire.jp/prwfile/release/M101404/202310050685/_prw_PA1fl_4RSO0cOe.pdf

●IR いしかわ鉄道と金沢市公共シェアサイクル「まちなり」モビリティ連携社会実験の実施方法の変更について【石川県、金沢市】

石川県・金沢市・IR いしかわ鉄道・まちなり事務局が連携して実施している「IR いしかわ鉄道×まちなり モビリティ連携社会実験」について、より多くの方にご参加いただけるように、参加条件を緩和の上、実施期間を延長して、実施いたします。

新たに「IR いしかわ鉄道線の通勤定期券」と「まちなり」を組み合わせ通勤する方を対象に、IR いしかわ鉄道の通勤定期券利用者を対象に、金沢市公共シェアサイクル「まちなり」の料金について、月額会員1ヶ月分又は1回利用20回分の割引を適用しています。

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kisya/r5/documents/1101_10_heikouzairaisen.pdf

●自動運転・隊列走行 BRT 東広島市での実証実験開始と内容詳細について【東広島市、JR西日本】

東広島市と西日本旅客鉄道株式会社は、自動運転・隊列走行 BRT の実証実験を、西条駅～広島大学東広島キャンパスを結ぶ県道・市道「ブルーパール」において開始しました。実施期間は、2023年11月7日から12月27日までです。

https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231101_00_press_BRThiroshima.pdf

●BRTひこぼしライン燃料電池バス(FCバス)実証運転を開始します！【福岡県、JR九州、CJPT】

九州旅客鉄道株式会社は、福岡県、Commercial Japan Partnership Technologies 株式会社とともに、地域交通への水素を活用した FC モビリティ導入の実現に向け、BRT ひこぼしラインでの燃料電池バス実証運転を実施します。実証運転期間は、2023 年 11 月 28 日から 2025 年春までを予定しています。

https://www.jrkyushu.co.jp/common/inc/news/newtopics/_icsFiles/afieldfile/2023/11/15/231115.BRT_hikoboshi_line.FC-bus_operation_start_date.pdf

●AIオンデマンドバス「のーと津幡」12 月 4 日発車します！【津幡町】

「のーと津幡」は、時刻表や決まった運行ルートがなく、予約状況に応じて最適な運行ルートを走る、AIを活用した新しいタイプの乗合バスサービスです。津幡町では、2023 年 12 月 4 日の運行開始に向けて、11 月 6 日から関連区にて説明会を開催しています。各区の日程や場所は、区長から回覧板等で案内があります。

<https://www.town.tsubata.lg.jp/division/seikatsukankyou/aibus.html>

●加治川地域公共交通「かじかわ号」【新発田市】

新発田市では、2023 年 11 月 7 日から「かじかわ号」の運行が開始しました。運行区域は、貝屋～住田、大野～金塚駅前～向中条、道賀、西名柄～新発田市街地で、午前と午後に二便ずつ運行します。

運行内容の詳細は「令和 5 年 11 月 7 日～かじかわ号 利用ガイド」で確認することができます。

<https://www.city.shibata.lg.jp/kurashi/kotsu/bus/1024264/1024265.html>

●北海道古宇郡泊村と「地域活性化包括連携協定」を締結【泊村、佐川急便】

SGHD グループの佐川急便株式会社は、泊村と住民サービスの向上ならびに地域の活性化を図るため「地域活性化包括連携協定」を締結し、11 月 6 日、泊村役場において締結式を行いました。

佐川急便は社会インフラの一つである物流を担う企業として、保有するリソースやノウハウを活用し、地域経済の活性化や、持続可能な社会の実現に向けた活動を積極的に取り組んでいます。その一環として、官民一体となって地域課題に取り組む「SAGAWA タウンサポート」を全国の自治体へ展開しています。

SAGAWA タウンサポートとして、観光やビジネス客の利便性を目的とした「手ぶら観光」や、交通インフラの維持・物流の効率化・環境負荷低減に効果が見込まれる「貨客混載事業」等を促進しています。また、子どもや高齢者の見守り活動や災害時における物資の輸送支援等、地域の安全・安心に資する活動も行っています。

本協定の締結を契機に、佐川急便は双方のリソースやノウハウを有効に活用し、協働することで多様なサービスの創出、持続可能な暮らしやすいまちづくりと地域活性化を目指し、社会的課題の解決・改善に取り組みます。

https://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2023/1107_2157.html

●秋田県大館市における自動運転実証実験に WILLER とティアフォーが参画 ～2025 年の自動運転レベル 4 実装に向けた WILLER とティアフォーの自動運転事業連携第一弾～【大館市、WILLER、ティアフォー】

WILLER 株式会社と株式会社ティアフォーが参画する大館版自動運転移動サービス推進協議会は、大館市比内エリアにおいて自動運転移動サービス導入を見据えた実証実験を開始しました。実施期間は、11 月 21 日から 11 月 30 日までです。

https://www.willer.co.jp/news/press/2023/1113_5509

●EV を活用した地域の強靱化に向け共創【宮古市、日産自動車、岩手日産自動車、盛岡日産モーター、日産プリンス岩手販売、日産チェリー岩手販売】

宮古市と、日産自動車株式会社、岩手日産自動車株式会社および盛岡日産モーター株式会社ならびに日産プリンス岩手販売株式会社、日産チェリー岩手販売株式会社の 6 者は、11 月 6 日、EV を災害時の電力源として活用し、市の強靱化を図ることを目的とした、「災害時における電気自動車の支援に関する協定」を締結しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/231106-01-j>

●環境にやさしい鉄道の利用を通じて WESTER ポイントが付与される『おおさか CO₂CO₂(コツコツ)ポイント+電車 de 脱炭素スタンプラリー』を開催します【JR 西日本、ギックス】

大阪府では、2050 年の府域の CO₂ 排出量「実質ゼロ」の実現をめざし、府民の脱炭素に向けた意識改革・行動変容を図るため、CO₂ 排出が少ない商品やサービスの購入といった環境優位の消費行動にポイントを付与する(「おおさか CO₂CO₂(コツコツ)ポイント+(プラス)」)が実施されています。

西日本旅客鉄道株式会社は、本事業に参画し、株式会社ギックスと協業で、利用者一人あたりの CO₂ 排出が少なく環境にやさしい鉄道の利用で WESTER ポイントが付与されるデジタルスタンプラリー『おおさか CO₂CO₂(コツコツ)ポイント+電車 de 脱炭素スタンプラリー』を、JR 西日本の移動生活ナビアプリ「WESTER」で 11 月 1 日から実施しています。

https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231026_00_press_datsutanso.pdf

●郊外電車に新型鉄道車両 7000 系を導入！ ～バリアフリーに対応、環境性能を向上～【伊予鉄道】

伊予鉄道株式会社は、2025年2月(予定)より、郊外電車に新型鉄道車両7000系を6両(2編成分)導入します。2027年まで毎年6両(2編成分)、3年間で合計18両(6編成分)を導入する予定です。

https://www.iyotetsu.co.jp/topics/press/2023/1114_rk7k.pdf

●新たな乗車券サービスの名称と主なサービス内容が決定しました【広島電鉄、NEC、レシップ】

広島電鉄株式会社、日本電気株式会社、レシップ株式会社の3社は、スマートフォンに表示させたQRコードや新たなICカードを認証媒体とするABT(Account Based Ticketing)方式の新乗車券システムの開発を進めておりますが、このたび、本システムによる広島エリアにおける新たな乗車券サービスの名称や主なサービス内容が決定いたしました。

<https://www.hiroden.co.jp/topics/2023/pdf/1023-newticketingsystem/newticketingsystem.pdf>

●「鉄道&カーシェア」本格スタート！～伊豆東海岸地域の移動を便利にしていきます～
【伊豆急行、ダイハツ沼津販売】

伊豆急行株式会社は、ダイハツ沼津販売株式会社と共同で鉄道利用とカーシェアリングを組み合わせた「鉄道&カーシェア」の実証実験を10月末まで行っていましたが、11月9日、伊豆急行線全6駅にて本格的に導入することを発表しました。

<https://camel3.com/cms/files/izukyu/MASTER/0100/vYulHxiv.pdf>

●「2023年とっとり大山町フォトジェニックな田舎かふえ巡り×サイクルトレイン」の発売について
【日本旅行、JR西日本】

株式会社日本旅行と西日本旅客鉄道株式会社は、鳥取県において、サイクリストの聖地化及び「鳥取うみなみロード」のナショナルサイクルルート指定を目指し、関係機関が連携し、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいます。サイクリングの旅の楽しみ方を広げることができるサイクルトレインの運行に向けた検討の取組として、サイクルトレインを活用し、大山町を自転車で巡るツアーを実施します。実施日は、2023年12月9日、10日で、申込期間は12月1日までです。

https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231114_00_press_photogenic00.pdf

●西武鉄道全線にて100%再生可能エネルギー由来の電力を使用し、実質CO₂排出量ゼロで運行します【西武鉄道】

西武鉄道株式会社は、鉄道業界全体で推進している脱炭素社会実現への貢献および西武グループ環境方針に基づき、2024年1月1日から西武鉄道全線で使用する全ての電力を実質的に再生可能エネルギー由来の電力とし、実質CO₂排出量ゼロで運行します。

https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20231107_seibuCO2zero/

●カーボンニュートラル実現に向けた「水素動力車両」の開発について【JR 東海】

東海旅客鉄道株式会社は、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた取組の一環として、軽油を燃料とするディーゼル車両から排出される CO₂ を実質ゼロにする技術の開発に取り組んでいます。その手段として、次世代バイオディーゼル燃料の試験を行っていますが、併せて水素を燃料とした「水素動力車両」の開発も目指しています。水素を燃料とした動力源については、「燃料電池」に加えて、鉄道では国内外で事例のない「水素エンジン」の活用も検討しています。今後、燃料電池又は水素エンジンを動力源とした鉄道車両の走行性能や、山間部が多く長距離となる当社の非電化路線への適合可能性等を検証するため、小牧研究施設にある車両走行試験装置と水素供給設備を組み合わせた模擬走行試験を実施します。

https://jr-central.co.jp/news/release/_pdf/000043037.pdf

●藤枝市で AI オンデマンド交通「ふじえだ mobi」を運行開始 ～「交通×まちづくり共創プラットフォーム」が地域一体となって、誰もが快適に移動できる地域交通をつくります～【静鉄タクシー、Community Mobility】

静鉄タクシー株式会社と、Community Mobility 株式会社は、国土交通省の「令和 5 年度共創モデル実証プロジェクト」に採択され、「交通×まちづくり共創プラットフォーム」を 2023 年 7 月に始動させました。共創 PF は、藤枝市が掲げる地域公共交通計画の実現を目指し、AI オンデマンド交通「ふじえだ mobi」の実証運行を開始しました。実証運行の期間は、11 月 1 日から 12 月 31 日までです。

https://www.willer.co.jp/news/press/2023/1026_5459

●「乗合タクシー運行実証実験」スタート式を行いました【京都府タクシー協会】

(一社)京都府タクシーは、京都駅烏丸口タクシー乗り場にて、京都駅から金閣寺のコースで行う乗合タクシー運行実証実験の「安全運転宣言」スタート式を 11 月 3 日に開催しました。実証実験は、11 月 26 日まで行われました。

<https://kyoto-taxi.or.jp/wp-content/uploads/2023/11/20231030-AE3183197E31831A0E31821B9E3183187E3183189E3183188E31831821BF1E31821AF1E31821B7E3183183E318AE318F1E318B1BCE318AE318F1E318A81831E318F1B1B183.pdf>

●エリア定額乗り放題“mobi”が新サービス“Community Channel”で地域企業と住民をつなぐ ～地域に寄り添った、地域に有益な情報提供により、行動変容を促し移動を活性化～【Community Mobility】

AI シェアリングモビリティサービス『mobi』を提供する Community Mobility 株式会社は、mobi 車内にタッチ式デジタルサイネージを設置し、mobi 利用者にまちの情報を提供する新サービス『Community Channel』のテストマーケティングを、11 月 1 日より今治市エリアで開始しました。

https://www.willer.co.jp/news/press/2023/1101_5483

●軽自動車 EV タクシーの運行を開始 ～車両特性を活かし女性乗務員の獲得強化も狙う～【甲州タクシー】

富士急グループの甲州タクシー株式会社では、2023年11月6日より関東地域で軽自動車EVタクシーの運行を開始しました。タクシー車両の安全基準に適合した軽EVタクシーを新たに導入するとともに、多くの人が抵抗感無く運転できることや、タクシー乗務員が時間の融通の利く仕事であることをアピールし、男性乗務員が多いタクシー業界において女性乗務員を獲得し、女性活躍の機会を積極的に提供していくことを目指しています。

https://www.fujikyuu.co.jp/data/news_pdf/pdf_file1_1698894902.pdf

●人流をリアルタイムで計測し、都市や建築の空間評価に活かす3D-LiDARシステムを開発【日建設計】

株式会社日建設計は、株式会社デンソーウェーブと協働し、3D-LiDARを用いて人流をリアルタイムで計測するシステムのプロトタイプを開発しました。

日建設計は、人々が交流・活動する場として数多くの都市と建築の空間をデザインしてきました。空間に対するニーズが時とともに変化していく中で、運用時の人の動きを定量的に評価し、空間の課題抽出や改善提案、施設運用に活かすことで、更なる価値向上を実現できると考えます。日建設計の東京オフィスのパイロットフロアにて本システムの本格運用を開始しています。

<https://digitalpr.jp/r/76775>

●出光興産とFOMMがバッテリー交換式EV事業の協業検討を開始 ～国内のEVメンテナンスネットワークの構築によりEVのカーケアニーズに対応～【日建設計】

出光興産株式会社は株式会社 FOMM と、サービスステーション(以下「SS」)のネットワークを活用した EV 関連事業の推進を目的に、協業の検討に関する覚書を締結しました。本覚書のもと両社は、EV のメンテナンスや軽自動車向け EV コンバージョンサービス体制の構築等を検討します。

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2023/231026.html>

●ラストワンマイル配送に燃料電池小型トラック・電気小型トラックを導入【佐川急便】

SGHD グループの佐川急便株式会社は、福島県と東京都での電動車普及に向けたエネルギーマネジメントシステムの構築・社会実装に参画しています。その取組の一環として、11月15日より、ラストワンマイルの配送に、燃料電池小型トラックおよび、電気小型トラックの導入を開始しました。

https://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2023/1115_2160.html

●自動搬送ロボット「ハコボ」を用いて公園内での情報発信と巡回パトロールをサポート ～新たなロボットサービスの展開に向けて広島市内の公園で実施～【パナソニック HD】

パナソニック HD 株式会社は、広島市にある「ひろしまゲートパーク」にて、NTT コミュニケーションズ株式会社と NTT 都市開発株式会社が、2023 年 11 月 9 日から行っている、自動搬送ロボットを活用した情報発信・巡回パトロールの実証実験において、自動搬送ロボット「ハコボ」および遠隔運用サービスを提供しています。実証実験の期間は、11 月 9 日から 12 月 1 日までです。

<https://news.panasonic.com/jp/press/jn231108-1>

●自動運転事業において連携を開始 ～2023 年度に国内 3 エリアで実証実験を行い、2025 年度には 10 エリア程度での実用化を目指す～【WILLER、ティアフォー】

WILLER 株式会社と株式会社ティアフォーは、自動運転を活用した新しいモビリティサービスの創造を目指し、連携を開始しました。サステナブルな地域交通を創造するため、新たに導入する自動運転バスと既存の地域交通や福祉・教育分野等の地域事業者が提供する域内移動サービスとの連携を通じて、地域交通全体の利便性を高めることで住民の行動変容を促し、移動総量が増加することによる地域経済の活性化を目指します。

2023 年度は、国土交通省の 2022 年度「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）」に採択された大館市、佐渡市、鳥取市において実証実験を実施予定で、閑散バス路線を自動運転バスに置き換えることによるニーズや課題を検証し、ビジネスモデルを創造していきます。そして、これらの地域での課題検証を踏まえ、2025 年度には約 10 エリアでの実用化を目指します。

https://www.willer.co.jp/news/press/2023/1102_5492

●フォロフライ F1 TRUCK をセブン-イレブンが移動販売車として初導入【フォロフライ、セブンイレブン・ジャパン】

EV メーカーのフォロフライ株式会社では、ラストワンマイルに適した国内初の 1 トンクラス EV トラックを自社開発し、国内普及を進めています。

株式会社セブン-イレブン・ジャパンがフォロフライ F1 TRUCK を初導入し、2023 年 10 月より南房総市の周辺地域で「セブンあんしんお届け便」の移動販売車両としてテスト運行を開始しました。

<https://folofly.com/2023/11/02/release-20/>

●フォロフライ F1 VAN をアスクルが 2030 年「CO₂ゼロチャレンジ」検討車両として初起用【フォロフライ、アスクル】

EV メーカーのフォロフライ株式会社では、ラストワンマイルに適した国内初の 1 トンクラス EV トラックを開発し、国内普及を進めています。

アスクル株式会社がフォロフライ F1VAN を初導入し、10 月より ASKUL 東京 DC において第 1 号車を配送に使用しています。

<https://folofly.com/2023/11/02/release-19/>

● 配送計画を効率化するエンタープライズ向けクラウドサービスを提供開始 経路距離計算業務を最大 96%短縮し、物流DXを推進【ジオテクノロジーズ】

ESG メタバースカンパニーのジオテクノロジーズ株式会社は、商用車の移動にかかる距離と所要時間を高速計算することができるエンタープライズ向けクラウドサービス「経路マトリクス API」を 11 月 13 日より提供開始しました。

デジタル地図事業とオートモーティブ事業を通して構築した高精度で高鮮度なデジタル地図とルート検索技術を掛け合わせて開発した「経路マトリクス API」によって、配送計画における経路距離計算業務を最大 96%短縮し、効率化を実現しました。

「経路マトリクス API」を通して物流 DX を推進し、配送計画業務を効率化することで、最適な配送順の策定を可能にし、ドライバー不足問題の解消と CO₂ 排出量の削減に寄与することを目指しています。

<https://geot.jp/pressrelease/pressrelease-20231113/>

● 大分空港初、空港内作業車両で高純度バイオディーゼル燃料「B100 燃料」の実証実験を開始【JAL、くにさきエコシステム、国東重販】

日本航空株式会社は、CO₂ 排出量削減への取組の一環として、大分空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクターに高純度バイオディーゼル燃料濃度 100%の「B100 燃料」を使用する 1 年間の実証実験を、2023 年 11 月 1 日より開始しました。

「B100 燃料」は、国東市が地球温暖化防止を目的として実施する事業「くにさきわくわく油田プロジェクト」により、市内各地の拠点から回収された各家庭の使用済みてんぷら油を原料として精製されています。この取組は地域で使用する地産地消の循環型エネルギーで、軽油と比べて 1 リットル当たり 2.62kg の CO₂ 排出量削減の効果が見込めます。なお、実施にあたっては、(一社)高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会の会員である、くにさきエコシステム株式会社が「B100 燃料」の製造・供給を、国東重販株式会社が車両への給油を担当します。

https://www.jal.com/press/2023/11/01/20231101_01.html

● 1 台をさまざまな用途で活用できる「マルチタスク車両」のラインアップに EV を追加 ~2023 年 10 月から三重県で行われる医療 MaaS の実証実験で使用~【MONET】

MONET Technologies 株式会社は、日野自動車株式会社の小型 BEV トラック「日野デュトロ ZEV」のウォークスルーバン仕様を架装し、MONET の「マルチタスク車両」のラインアップに追加します。2024 年 1 月からレンタカーとして提供を開始し、今後リースによる販売も行う予定です。まず、2023 年 10 月 27 日から 2024 年 1 月末まで三重県で実施される「令和 5 年度医療 MaaS(中山間地域における住民の健康・生活を維持するモビリティサービス実装事業)」の実証実験で使用されます。

https://www.monet-technologies.com/news/press/20231027_02

●内航船で廃食油を直接混合したバイオ燃料を用いた運航に成功【商船三井、商船三井内航】

株式会社商船三井のグループ会社である株式会社商船三井内航が運航する 499 総トン型内航貨物船「第一鐵運丸」で廃食油を直接重油に混合したバイオ燃料を用いた運航に成功しました。

今回使用したバイオ燃料は、国内の植物油由来の廃食油を、船用燃料用に直接重油と混合した燃料で、船用燃料としての使用は国内初の取組となります。

<https://www.mol.co.jp/pr/2023/23141.html>

●LNG 燃料パナマックス型石炭専用船「芥明」の運航を開始しました【商船三井、九州電力】

株式会社商船三井と九州電力株式会社が建造を進めていた環境負荷の低いLNGを主燃料とするパナマックス型石炭専用船が 11 月 14 日に竣工し、運航を開始しました。

株式会社名村造船所の伊万里事業所にて命名竣工式を行い、本船を「芥明」と命名しております。

<https://www.mol.co.jp/pr/2023/23143.html>

●商船三井とコスモ石油が CCS バリューチェーン構築に向けた海上輸送等の調査・検討に関する覚書を締結【商船三井、コスモ石油、コスモエネルギーHD】

株式会社商船三井と、コスモ石油株式会社は、10 月 27 日、Carbon dioxide Capture and Storage (CCS) バリューチェーン構築に向けた海上輸送等の調査・検討に関する覚書を締結しました。

CCS は低・脱炭素社会を実現する有効な手段の一つとして期待されています。商船三井はコスモ石油と、コスモ石油が運営する製油所から排出される CO₂を対象に「分離・回収、輸送、圧入・貯留からなる CCS バリューチェーン」の構築で協業し、調査・検討を実施します。

<https://www.mol.co.jp/pr/2023/23137.html>

●本邦航空会社初、水素航空機スタートアップ企業 3 社と協業を開始 ～安全・安心でサステナブルな未来の空を創るために～【JAL、JAL エンジニアリング、H2FLY GmbH、Universal Hydrogen Co.、Zero Avia Inc.】

日本航空株式会社は、飛行中の CO₂ 排出量をゼロにすることができ、将来の持続可能な空の移動手段の 1 つとして期待されている、水素を燃料とする次世代航空機を日本の空へ導入することを目指し、安全性、経済性、整備性などについての検討を進めるため、水素航空機の開発を行う H2FLY GmbH、Universal Hydrogen Co.、Zero Avia Inc. のスタートアップ企業 3 社と、それぞれ基本合意書を締結しました。なお、水素航空機の技術面に関する検

討・協力については、JAL グループの航空機整備を担う株式会社 JAL エンジニアリングが進めます。

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202311/007756.html>

●「東京ベイ eSG プロジェクト令和 5 年度先行プロジェクト」において、次世代モビリティ(空飛ぶクルマ用浮体式ポート・陸海空のマルチモーダル MaaS)の提案が採択【野村不動産、清水建設、ANAHD、朝日航洋、Kidou Systems、イトノット、東京ウォータータクシー】

野村不動産株式会社を代表企業とするグループ(野村不動産株式会社、清水建設株式会社、ANA ホールディングス株式会社、朝日航洋株式会社、株式会社 Kidou Systems、株式会社イトノット、東京ウォータータクシー株式会社)は、東京都政策企画局が展開している「東京ベイ eSG プロジェクト令和 5 年度先行プロジェクト」の”次世代モビリティ”の応募テーマにおいて、空飛ぶクルマ用浮体式ポートを核とした、陸海空のマルチモーダル MaaS 実現に向けたシステムの構築及び運行実証を提案し、採択されました。

<https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2023103002320.pdf>

●空中配送ロボットの実証実験に関する連携協定締結 世界初、郊外住宅地における空中配送ロボット実証実験 ～持続可能なまちづくりの実現へ～【パナソニック HD、東急、UR 都市機構】

パナソニック HD 株式会社、東急株式会社、独立行政法人都市再生機構は、川崎市麻生区の UR 虹ヶ丘団地にて、世界初となる郊外住宅地における空中配送ロボット技術を活用した新たな配送サービスの実証実験の実施、および本実証実験を活用した持続可能なまちづくりの推進に向けて 10 月 13 日に連携協定を締結し、11 月 18 日から本実証実験を開始しました。実証実験の期間は、2023 年 11 月 18 日から 2024 年 3 月 31 日までです。

<https://news.panasonic.com/jp/press/jn231106-1>

●ドローンによる医療コンテナへの医療物資輸送の実証実験を実施します【名鉄】

名古屋鉄道株式会社は、愛知県から受託した「あいちモビリティイノベーションプロジェクト『空と道がつながる愛知モデル 2030』実証実験業務」の一環として、「医療コンテナへの医療物資輸送」をテーマとした実証実験を 11 月 15 日に実施しました。

https://www.meitetsu.co.jp/profile/news/2023/_icsFiles/afidfile/2023/10/31/23-10-31droneiryobusshiyusou.pdf

●インドネシア・ジャカルタ郊外 BSD City における EV を活用した同国初の移動式コンビニ「Mobile Lawson」実証実験開始について 経済発展と都市化が進むインドネシアにて、住民のニーズに応える都市サービスの実装を目指す【三菱商事、Lawson Indonesia】

三菱商事株式会社は、インドネシア／ジャカルタ郊外の BSD City において、PT Lancar Wiguna Sejahtera と共同で、都市の価値向上に資する都市サービスの実装に向け、EV を活

用した移動式コンビニ「Mobile Lawson」に関する実証実験を開始しました。実施期間は、2023年10月30日から2024年3月31日までです。

<https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/pr/archive/2023/html/0000052171.html>

●電気推進船の研究・開発・建造・日本でのマーケティング販路拡大に向けた覚書を締結【商船三井、Pyxis】

株式会社商船三井と、電気推進船の所有・販売を目指すスタートアップ企業の Pyxis Maritime Pte Ltd は、海運業界を取り巻く環境意識の高まりに対応するため、シンガポール域内でのEV船事業化に向けたEV船の共同研究・開発・建造・日本でのEV船導入拡大に向けたマーケティングで協業することに合意し、覚書を締結しました。

<https://www.mol.co.jp/pr/2023/23140.html>

●持続可能な都市モビリティ計画の策定支援する新たな自治体向け資金プログラムを開始【ドイツ】

連邦デジタル運輸省(BMDV)は、新たな資金募集を通じて自治体の持続可能なモビリティ計画を支援しています。EU委員会によって策定された「持続可能な都市モビリティ計画」(SUMP)に基づく持続可能な都市モビリティ計画の作成または更新に資金が提供されます。交通モデリングや参加プロセスなどの付随措置も資金提供の対象となります。調達率は65%で、財政的に弱い自治体は80%の補助金を受けられます。今年は600万ユーロが用意されています。

<https://bmdv.bund.de/SharedDocs/DE/Pressemitteilungen/2023/100-wissing-nachhaltige-mobilitaetsplanung-foerdern.html>

●ドイツ・Hy2gen Deutschlandとe-メタノール利用の共同検討に関するMOUを締結【商船三井、Hy2gen Deutschland】

株式会社商船三井は、Hy2gen Deutschland GmbHと、e-メタノール利用の共同検討に関する覚書を締結しました。

Hy2gen Deutschlandがドイツのニーダーザクセン州で展開するプロジェクトで2028年より生産予定のe-メタノールについて、大西洋域での海上輸送における船用燃料としての利用を検討します。

e-メタノールは、回収された二酸化炭素と再生可能エネルギーで生成した水素を合成して生成するクリーンエネルギーで、重油などの船用燃料と比較して、温室効果ガス排出量を大幅に削減することが可能です。

<https://www.mol.co.jp/pr/2023/23135.html>

●重要鉱物の持続可能な開発に必要なインフラ整備に15億ドルを拠出【カナダ天然資源省】

カナダ天然資源省は、「カナダ重要鉱物戦略」の下、重要鉱物の持続可能な開発に必要なクリーンエネルギー・輸送インフラプロジェクトに7年間で最大15億ドルを拠出すると発表し、10月31日、「重要鉱物インフラ基金」(CMIF)を通じて提案の受付を開始しました。

重要鉱物は、ネットゼロエミッションの未来を達成するために不可欠な、バッテリーなどのクリーンテクノロジーや、風力タービンやソーラーパネルなどのクリーンエネルギー源を実現する重要な要素です。カナダ政府は、重要鉱物の開発に必要なインフラに投資することで、鉱物探査から持続可能な採掘、加工、先進的な製造、リサイクルまでのバリューチェーンにおける経済的機会の実現と同時に、世界的な排出実質ゼロ経済の達成に不可欠なクリーン技術の開発に寄与することを目指しています。

<https://www.canada.ca/en/natural-resources-canada/news/2023/10/government-of-canada-to-enhance-critical-minerals-sector-with-launch-of-15-billion-infrastructure-fund.html>

4. イベント情報

● 第 47 回 EST 創発セミナーin 姫島〔九州〕

日時:2023 年 12 月 11 日(月)12:15~14:50

場所:大分県姫島村 離島センター「やはず」(オンライン併用)

主催:九州運輸局、姫島村、EST 普及推進委員会、エコモ財団

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu75.html>

● 山陽電車なぞときさんぽ旅 第 2 弾

日時:2023 年 9 月 15 日(金)~2024 年 5 月 26 日(日)

販売場所:西代、板宿、東須磨、山陽須磨、山陽垂水、山陽明石、東二見、高砂、
大塩、飾磨、山陽姫路、山陽網干の各駅、ご案内センター(明石)

主催:山陽電気鉄道株式会社

<https://www.sanyo-railway.co.jp/media/1693803855.pdf>

● 鉄道の日 デジタルスタンプラリー(中国地区)

日時:2023 年 10 月 1 日(日)~2024 年 1 月 31 日(水)

場所:中国運輸局地区内

主催:中国地区「鉄道の日」実行委員会

https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/00001_01729.html

● 第 35 回技術研究発表会「スマート技術を活用したウェルビーイングなまちづくり」

日時:2023 年 12 月 1 日(金)10:30~18:30

場所:オンライン及び 3×3Lab Future(定員制)

主催:アーバンインフラ・テクノロジー推進会議

https://www.uit.gr.jp/tech_research2023/

● おだきゅう Family Fun フェスタ 2023

日時:2023 年 12 月 2 日(土)、3 日(日)10:00~16:00

場所:海老名中央公園

主催:小田急電鉄株式会社

<https://www.odakyu.jp/news/jl4d7l0000000rhw-att/jl4d7l0000000ri3.pdf>

● 鉄道イベント「高崎ぼっぼ祭り」

日時:2023 年 12 月 9 日(土)、10 日(日)

場所:高崎運輸区及び高崎駅留置線

主催: 東日本旅客鉄道株式会社

https://www.jreast.co.jp/press/2023/takasaki/20231114_ta01.pdf

● 公共交通シンポジウム 2023「あなたのまちをデータで見ると何が分かる? ~都市データの交通分野への活用法~」

日時: 2023年12月11日(月)14:00~16:40

場所: 日比谷コンベンションホール(日比谷図書文化館地下1階)

主催: 国土交通省関東運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/content/000305542.pdf>

● 地域公共交通活性化シンポジウム in 関西 地域公共交通「リ・デザイン」に向けて — 2024年人流クライシスをどのように乗り越えるのか? —

日時: 2023年12月15日(金)13:30~16:30

場所: クレオ大阪東ホール

主催: 国土交通省近畿運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000305882.pdf>

● グリーン経営認証取得講習会

日時: 【トラック・バス・タクシー】2023年12月21日(木)13:30~16:30

【海事等】2023年12月22日(金)9:30~12:00

場所: (公社)和歌山県トラック協会 3階大会議室

主催: 国土交通省近畿運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000305861.pdf>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://mm-education.jp/magazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<https://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組や話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecommo.or.jp(担当: 中道)

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<https://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

ESTポータルサイト: <https://www.estfukyu.jp/>